

と言います。そして木のあたたかい
感触に感激して帰ります。私もこの
建物が、私たちの町にあることを誇
りにしています。歴史の資産が多い
栄区に編入したのを機会に、このあ
たりの歴史的資産を後に伝える為
に資料館として残してほしいです。昔
を語れる人々は、父たちの代で終り
になるのではないかと思います。今
後も住民がより活用しやすい千秀青
少年センターの存続を希望します。
センターの裏山一帯を市民の森とす
る話も聞きましたが、郷土の自然は、
今のままであってほしいのです。

三町内合わせても銀行、郵便局、商
店街のない町、都市ガスもきていな
い町。大船駅にも戸塚駅にも遠くて

仕事を通して考える

魚本一司

日頃区において地域行政に携わる
職員として、また、タウンウォッチ
ングの対象となった地域に住む住民
として「まち1986」を興味深く
読ませていただきました。この報告
書の中には、私が日常の業務の中で

不便ですが、私たちの願いは自然を
そのままにしてほしいのです。横浜
市の公害対策局大気課による昭和五
十九年度二酸化窒素濃度のデータ
で長尾台周辺地区はほほ良好の結果
が出ています。この先この辺も市街
化調整区域の見直しがあると聞きま
す。

そのように行政の力で私たちの町
の活力にもなるし、今この緑豊かな
自然が生きているのも行政の力によ
るものと思います。

△田谷子ども会育成者副会長、豊田
交通安全母の会副会長、前・千秀小
学校PTA校外補導委員長、元・矢
島幼稚園父母の会会長、元・千秀小
学校PTA学年学級委員V

「どうもうまくないな」と感じてい
る現象と、そのことに対する考え方
のヒント—今すぐ実行実現できるか
どうかは別にして—のようなものが
数多くあったように思います。

区では市民課をはじめとして、区

民を対象に様々な行事やイベントを
行っています。しかしながらその行
事やイベントの際、行政のやるうと
していることと住民のニーズとの間
には、かなりのズレがあるのでな
いかという感じがしてなりませんで
した。

このことについては、社会がいわ
ゆる大衆社会化していること、それ
に伴い「私化」する個人のニーズが
多様に拡散していること、そして地
域社会に背を向ける「私生活中心主
義的態度」が大多数の生活規範とな
っていることに原因があると自分な
りに理解をしていたところでした。

それに対し、個人原理が大衆社会
ではなく新しい地域社会を志向して
いる、そして私化する個人のニーズ
がいわゆる「自主活動」を産み出し
そのエネルギーが地域をいきいきと
したものにしているという報告書の
指摘は、私にとって非常に新しいも
のでありました。ただ、このような
形の地域参加ないしは参加したいと
いう意識が市民のマジョリティであ
るといふ検証が、個々の事例の研究

と共に今後の重要な課題であると思
われます。

さて、こういった活動に対する行
政、特に現場の区では、報告書にも
あるようにまさに「そういう活動と
うまくつきあっていく方法を、まだ
行政は知らない」と言わざるを得ま
せん。この点について報告書は、タ
テ割行政の弊害と、職員が地域の実
態を十分に把握していないというこ
とを指摘しています。

タテ割行政の弊害については以前
からも度々言われてきたことであり
ます。青少年指導員や体育指導委員
は自治会で推薦したにもかかわらず
自治会長から情報が流れてきたこと
がないとか、結局同じ顔ぶれがそ
ろのに、各課各係がそれぞれモデル
地区を作り効率が悪すぎる等々の批
判は挙げればキリがありません。

自治会、各種団体、自主活動グル
ープが「教育」「福祉」「親睦」な
ど様々な場面でつながりを持ちなが
ら地域が総体として機能しているこ
とを「地域活動の重層的構造」とし
てとらえ、それを基に行政の対応を

考察していくという報告書の方法は、なかなか適切な整理の仕方であると思います。重層的に活動を行っている総体としての地域に対して自治会は自治会、青少年指導員は青少年指導員、民生委員は民生委員といったタテ割り方式で対応しているところ、無理が生じることが十分理解できます。

報告書では、大岡川クリーンフェスティバルの事例を引いて「区の総合調整機能」に解決方法の一端を見つけ出しています。「行政のタテ割

りの構造を、いかに現場の区が地域からの発想で生かしているか、ということが問われている」そしてそのために職員は地域をよく知ってほしい、というのが報告書の提言であります。

区のレベルでの努力が必要だという指摘はその通りだと思います。また、職員が地域をもっと知らなければという指摘も当たっていると思います。

しかし、区も組織で動いているのです。一人一人の職員が努力してい

くといってもおのずと限界があるように、現在の機構及び予算の制度の枠内では、職員が地域に入っていくだけでも、担当している団体の運営や行事の段取りに一年中追い回されているといった現状の中で、どれだけ区が「タテ割りの構造を地域からの発想で生か」せるのかは大きな疑問と言わざるを得ません。

ある職員がたまたまそこに居合わせたからうまくいったという属人的な形ではなく、どの職員が担当しても一定の成果が上がるような形に機

構や予算の制度を見直していくことが、区や職員のレベルでの努力と共に最大の課題であると思います。

最後に、タウンウォッチングの対象地域に住む住民として、自分の住む「地域」についてかなりのことを知ることができたという意味においても、報告書は大きな収穫となったことを付け加えたいと思います。

△磯子区市民課地域振興係▽